

**アクションプラン  
総括的検証報告書  
石北線**

---

**令和6年1月**

**石北線アクションプラン実行委員会**

# はじめに

- **本報告書は、平成31年4月9日に公表されたアクションプラン第1期計画（令和元～2年度）および令和3年4月16日に公表された第2期計画（令和3～5年度）の5年間の取組状況について、石北線アクションプラン実行委員会が検証を行い、その結果を取りまとめたものである。**
- **第1期・第2期計画期間ともに、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けたが、感染拡大防止に最大限留意しながら、線区を活性化するためアクションプランの推進に取り組んだ。加えて、令和5年度は、公共交通の利用実態・意向調査や鉄道とバスとの連携による都市間輸送の強化に資する各種実証事業にも取り組んだ。**
- **本検証を踏まえ、石北線を持続的に維持する仕組みを構築するための検討等につなげていく。**

# 1 目的・具体的取組の基本方針

## (1)目的

- 石北線を持続的に維持していくため、J R北海道と地域の関係者は、収支改善に資する具体的な取組を進める。
- また、これにより、J R北海道と地域の関係者が一体となって取り組む気運を醸成する。

## (2)具体的取組の基本方針

- 石北線の収支改善を図るため、収入を増やし、経費を節減する取り組みを行う。
- 都市間輸送など幹線交通や生活路線、物流としての特性を持つことから、これらの側面を活かした取り組みを行う。
- 地域のマイルール意識醸成など、J R北海道と沿線地域の関係者が石北線の維持・活性化に向けて、一体となって取り組む。

## 2 具体的取組の検証①

### (1)実施状況

- ・ 総括的検証にあたり、取組実施及び効果検証における新型コロナの影響の有無を明確にし、第1期計画期間も含めた再検証を実施。
- ・ 27件の取組については、新型コロナの影響により、効果を十分に検証できず、うち1件については計画した取組そのものが実施できなかった。

※具体的取組、検証結果等の詳細は別紙を参照。

	第1期		第2期		合計
	件数 (割合)	主な取組	件数 (割合)	主な取組	件数 (割合)
◎	53 (80%)	・ JR乗車運賃、通学定期等への助成 ・ ロイヤルエクスプレスのおもてなし	66 (70%)	・ ご利用の少ない駅の見直し ・ 鉄道施設見学ツアー ・ 鉄道の乗車につながる取組 ・ 駅周辺の賑わいにつながる取組	119 (74%)
○	3 (4%)	・ 駅周辺のスペースを活用した誘客事業 ・ リーフレットの作成	11 (12%)	・ 鉄道カレンダーの作成 ・ 利用促進パネル展の実施	14 (9%)
△	11 (16%)	・ 駅周辺の環境整備 ・ 鉄道施設を利用した乗車イベント	16 (17%)	・ 特急列車内での特産品販売 ・ ミステリートレインの運行	27 (16%)
×	0		1 (1%)	・ リーフレットの作成	1 (1%)
合計	67		94		161

◎：計画した取組を全て実施し、効果検証できたもの

○：計画した取組の一部を実施し、効果検証できたもの

△：新型コロナの影響により、計画した取組が実施できなかったもの、または、取組を実施したものの、効果検証が十分にできなかったもの

×：計画した取組が実施できなかったもの、または、取組を実施したものの、効果検証ができなかったもの

## 2 具体的取組の検証②

### (2)取組項目別実施状況

		実施状況					取組結果
		◎	○	△	×	計	
利用促進	共通	44	7	12	1	64	広報誌等による鉄道利用の呼びかけ等は実施したが、鉄道施設見学ツアーや駅周辺の環境整備などの取組が新型コロナの影響により実施できなかった。
	生活利用	11	0	0	0	11	行事等で鉄道を利用した際の運賃等への助成や大規模輸送障害発生時の運行情報等の内容充実等の取組を実施した。
	観光利用	38	7	15	0	60	「THE ROYAL EXPRESS」運行に伴う賑やかしや観光資源の積極的な活用をしたフォトギャラリーコンテスト等は実施したが、駅前広場イベント活用による賑わい創出などの取組が新型コロナの影響により実施できなかった。
	広域交通	7	0	0	0	7	出張等での鉄道利用促進を実施した。
経費節減		12	0	0	0	12	ご利用の少ない駅の見直しとご利用の少ない踏切の見直し等を実施した。
その他		7	0	0	0	7	中長期的に鉄道施設を維持するため、集中工事を行う取組を実施した。
合計		119	14	27	1	161	

# 3 5年間の象徴的な取組について

## 特急列車内での特産品の販売

利用促進

遠軽町、北見市、美幌町、大空町、網走市およびオホーツク総合振興局では石北線沿線地域のお菓子や珍味などの特産品を特急列車内のお客様にお楽しみいただくため、週末を中心に地域の皆様が車内販売を実施し、令和元年度は約80回、令和2年度以降は毎年度約50回実施している。



## 「謎解き列車の旅」の実施

利用促進

北見市では、令和3年から夏休み期間に北見駅から目的の駅まで往復JRを利用して地元高校生が考えたクイズを解くミステリートレイン「謎解き列車の旅」を実施した。令和3年度は約200人、令和4年度と令和5年度は約400人ずつと3年間で約1,000人がツアーに参加した。



## ご利用の少ない駅の見直し

経費節減

地域の皆様のご理解をいただき、令和3年3月ダイヤ改正で將軍山駅、北日ノ出駅、東雲駅及び生野駅の4駅を廃止した。

また、令和3年4月から瀬戸瀬駅の維持費用負担と管理を遠軽町が行うこととなった。

(経費節減想定 約年0.1億円)



## JR運賃等への助成

利用促進

JR利用促進を目的に、愛別町と上川町では通学定期に対する助成を実施。

また、旭川市、遠軽町、北見市、美幌町、大空町及び網走市ではJR利用団体や特急利用等の運賃等に対する助成を実施し、5年間で約4,000人の利用促進を図った。



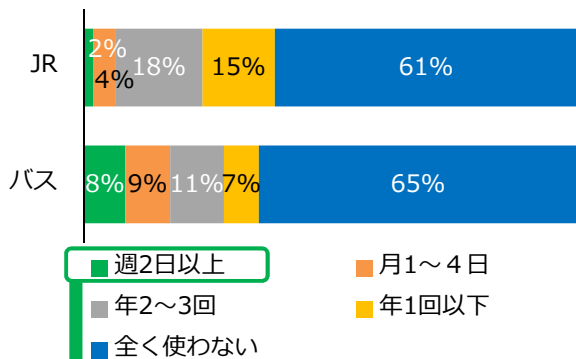
# 4 調査・実証事業 結果検証①

○「総括的な検証」を行うにあたり、データとファクトに基づき検証を行うため、国及び北海道の補助金を活用し、令和5年度に調査・実証事業を実施。

## 公共交通利用実態調査（地域住民アンケート・令和5年8～9月）

■ 調査期間:令和5年8月中旬～9月中旬 ■ 調査対象:沿線旭川市～網走市9市町居住の800名  
(回答337名 42%)※18歳以上高校生は除く無作為抽出

### ①利用頻度：JR・バス



日常的な利用（週2日以上）が、JRで2%、バスで8%と少なく約6割がまったく使わないと回答。

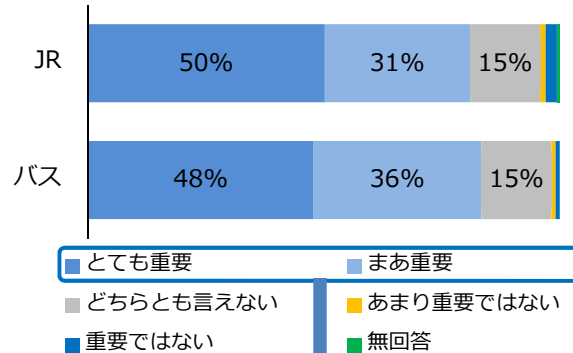
#### JRを利用しない理由（208件中）

- 車の方が自由度が高い149件(72%)
- 乗る習慣がない45件(22%)

#### バスを利用しない理由（220件中）

- 車の方が自由度が高い180件(82%)
- 乗る習慣がない62件(28%)

### ②公共交通の重要度：JR・バス



実際の利用者は少ないが、公共交通としてJR・バスともにとっても重要とまあ重要を合算すると約8割となる。

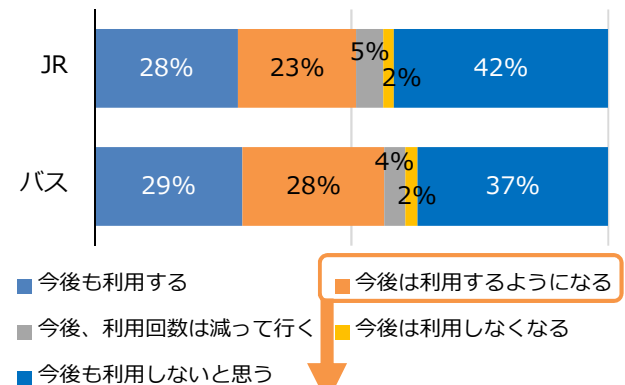
#### JRが重要と思う理由（273件中）

- なくなると地域がさびれる178件(65%)
- 高齢者・体の不自由な方のために必要168件(62%)

#### バスが重要と思う理由（281件中）

- 高齢者・体の不自由な方のために必要190件(68%)
- 通学に必要な145件(52%)

### ③今後の利用動向：JR・バス



今後の利用動向はJRが23%、バスが28%が利用するようになると回答。

#### JRの利用動向

- 全体の51%が今後も利用する、利用するようになると回答している。

#### バスの利用動向

- 全体の57%が今後も利用する、利用するようになると回答している。

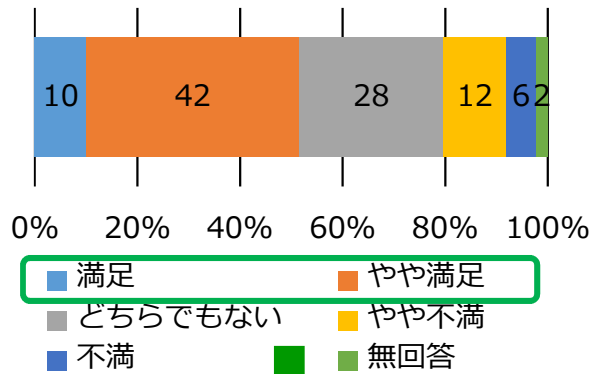
※鉄道・バス共通時刻表については鉄道とバスを組み合わせると便利とわかったことや鉄道やバスをもっと利用しようと思ったとの回答が延べ45%あった。

# 4 調査・実証事業 結果検証②

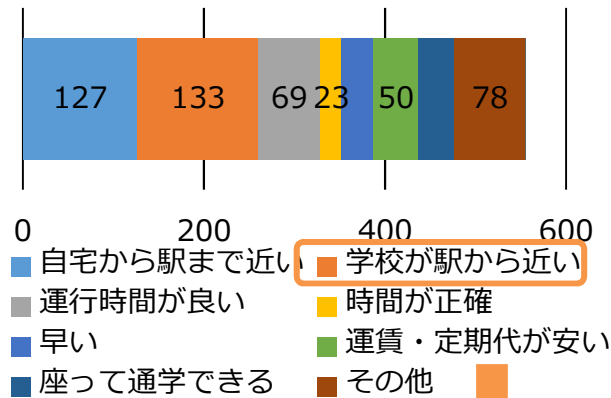
## 公共交通利用実態調査（高校生向け）

■ 調査内容：石北線沿線の高校通学生1,060人対象調査（令和5年9月）・回答359人(回答率33.9%)

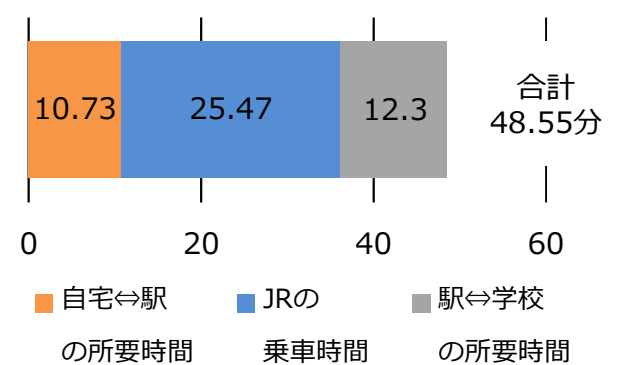
① JRの利用満足度 (単位：%)



② JR通学の主な理由 (複数回答/単位：件)



③ 通学移動時間（平均）(単位：分)



全体では、満足（満足、やや満足）割合が52%、不満（やや不満、不満）割合は18%となり、満足が上回っている。

### 項目別満足度（満足と不満の差）

- ・ 他交通機と接続（+評価） +14%
- ・ 運賃（+評価） +12%
- ・ 運行本数（-評価） -41%
- ・ 運行時間帯（-評価） -28%

JRを利用して通学している理由は、学校が駅から近いが最多、次に自宅から駅まで近い、ちょうどいい時間に列車があるの順になる。

### バスではなくJRを利用する理由

バスでも通学可能な生徒を対象として、バスではなくJRを利用する理由の問いには56%が定期代が安いからと回答。

通学時間合計が平均で48.6分となっており、旭川～上川(55分)、美幌～網走(58分)が長くなっている。

### 自宅⇔駅の交通手段(複数回答)

- ・ 自転車・バイク 38%
- ・ 家族の送迎 33%
- ・ 徒歩 26%



# 4 調査・実証事業 結果検証③

## 来訪者管内移動の利便性向上

### ○目的

- ・オホーツク管内の目的地に移動するため乗用車を選択するユーザーに対して、JR利用とセットで2次交通を提案し、公共交通利用へ転換を図ることにより都市間輸送の強化を図る。

### ○事業概要（R5年7月22日～9月20日で実施）

- ・石北本線利用が分かるきっぷの提示で、北見バスと網走バスのフリーパスに対して1,000円助成

### ○目標 100人(2019年石北線特急利用者〔2か月〕の1割増)

### ○利用者数 136人

### ○アンケート調査の結果

- ・道外の利用者も多く今回の実証事業は観光客の公共交通利用促進に効果があった。



- ・オホーツク地域に来訪した目的は観光が大半を占めている。
- ・JR+バスの組み合わせをまた利用する割合は約50%であった。



### ○結果を踏まえた評価

- ・石北線利用後の2次交通としてのバスの利用ニーズが明確となった。

**北見・網走をたっぷり乗り放題！フリーパス割引！**

JR石北本線を利用すると、北見バスと網走バスのフリーパスが「1,000円割引」で購入できます！

バス種別	1日乗車券	2日乗車券	3日乗車券
北見バスフリーパス	1,000円	1,200円	2,300円
あびしりフリーパス	-	-	2,300円

**フリーパス販売期間** 令和5年 7/22(土)～9/20(土)まで

**フリーパス利用期間** 令和5年 9/20(土)～9/22(日)まで

**■利用方法**

- 駅中のJR石北本線の利用がわかる乗車券(きっぷ・フリーパス又は乗車券)をバスのフリーパス販売窓口にご提示すると割引が受けられます。
- 購入時に、申請書、アンケートの記入をお願いします。
- 駅中何度でも利用できます。(JR石北本線乗車券1回につき割引1回です)
- バスフリーパスデジタルチケットは発行できません。

※1日8時から18時入場は乗車券も利用ができません。乗車券に本人写真が貼付された乗車券をご利用ください。

主催：JR石北本線 調査・実証事業 協議会 事務局：北見市地域振興課 ☎0157-25-1125

# 4 調査・実証事業 結果検証④

## 都市間移動の利便性向上

### ○目的

- ・ 定時性の高い鉄道とフリークエンシーのあるバスの利点を組み合わせることにより、多様な移動ニーズに応え、マイカーから公共交通への転移を促すことにより都市間輸送の強化を図る。

### ○事業概要（R5年8月21日～9月20日で実施）

- ・ オホーツク管内在住者が管内と札幌への往復利用の際、片道 J R、片道都市間バス利用に4,000円助成

### ○目標 100人(2019年石北線特急利用者〔1か月〕の2割増)

### ○利用者数 216人

### ○アンケート調査の結果

- ・ お盆の繁忙期期間後であったが、旅行、観光やイベントの移動が多かった。
- ・ J R とバスの相互利用をまた利用したいと回答した方が5割強いた。



- また利用したい
- J R 往復が良い
- バス往復が良い
- 自家用車が良い
- その他・無回答

- ・ ダイヤ・所要時間が良いとの回答が多く、組み合わせ利用の利点について高評価が多かった。

### ○結果を踏まえた評価

- ・ J R とバスそれぞれの利点を利用者が価格差が少ない状況で選択できることが公共交通の利用促進に繋がると思われる。



## 【まとめ】

- 日常利用ではマイカー移動が中心であり公共交通の選択率は低い。公共交通を利用してもらうため今回行った実証事業により、鉄道利用後の目的地までの2次交通としてのバスの利用ニーズが明確になったことに加え利用促進効果があった。また、都市間移動における鉄道と都市間バスの組み合わせにより選択肢が広がり利便性向上による利用促進効果が明確となったが、マイカーからの転換を一層促進するための方策や価格面等により継続可能かどうか課題がある。

## 5 基本指標・関連指標の検証①

### (1)基本指標の概況

#### ①令和4年度（年間）

- ・線区別収支は▲4,849百万円となり、新型コロナの影響を受けご利用が減少したほか、動力費の増加等により、基準とした平成29年度より606百万円下回った。
- ・輸送密度は525人/日となり、新型コロナの影響等により、基準とした平成29年度より366人/日下回った。

#### ②令和5年度（上期）

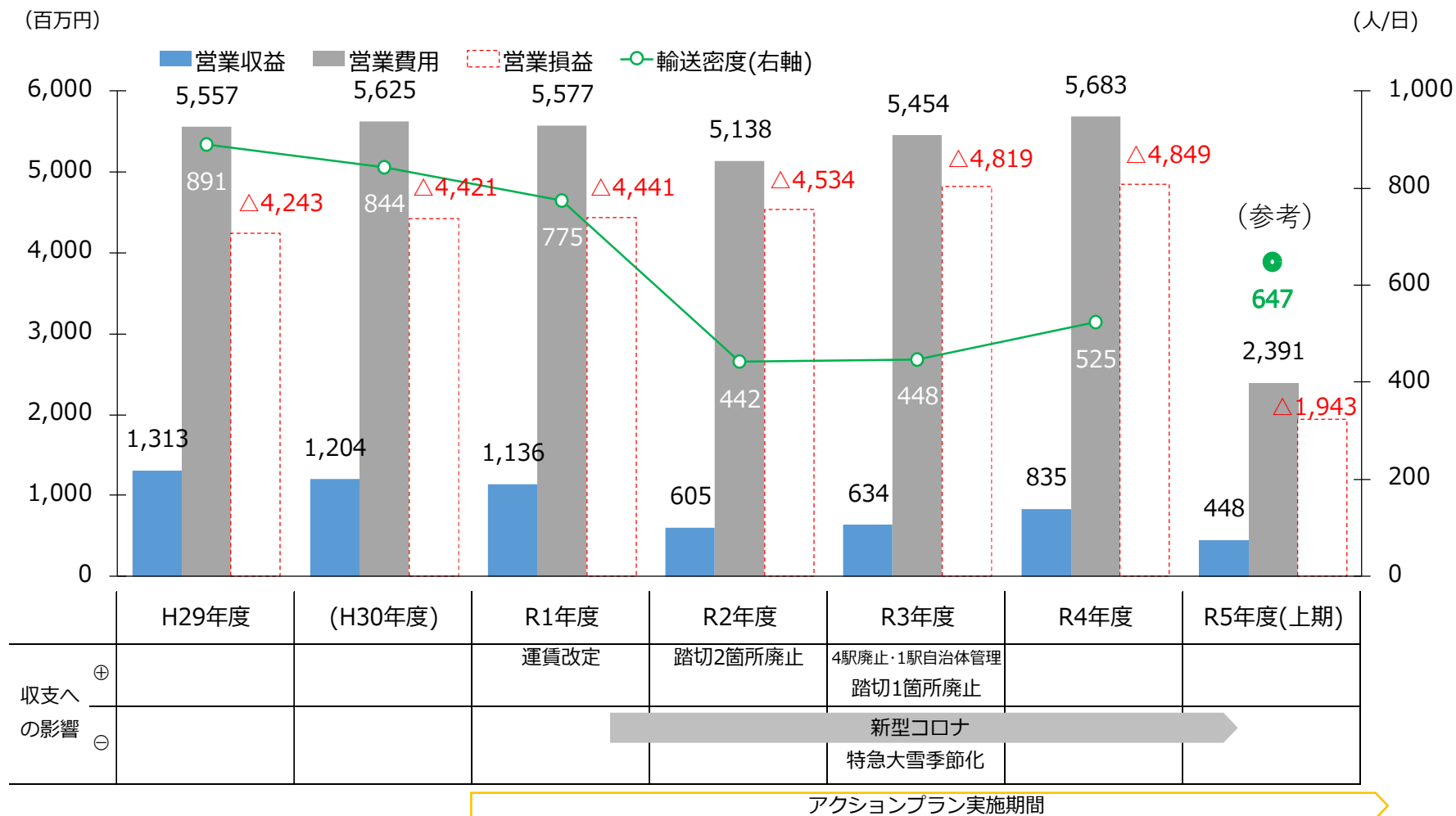
- ・線区別収支は▲1,943百万円となり、平成29年度より59百万円上回った。
- ・輸送密度は647人/日となり、平成29年度より217人/日下回った。

#### ▼基本指標の達成状況

項目	【年間】				【上期】		
	平成29年度	令和4年度	対目標	目標達成	平成29年度	令和5年度	増減
線区別収支 (百万円)	▲4,243	▲4,849	▲606	未達成	▲2,002	▲1,943	59
輸送密度 (人/日)	891	525	▲366	未達成	864	647	▲217

# 5 基本指標・関連指標の検証②

## (2)線区収支・輸送密度の推移

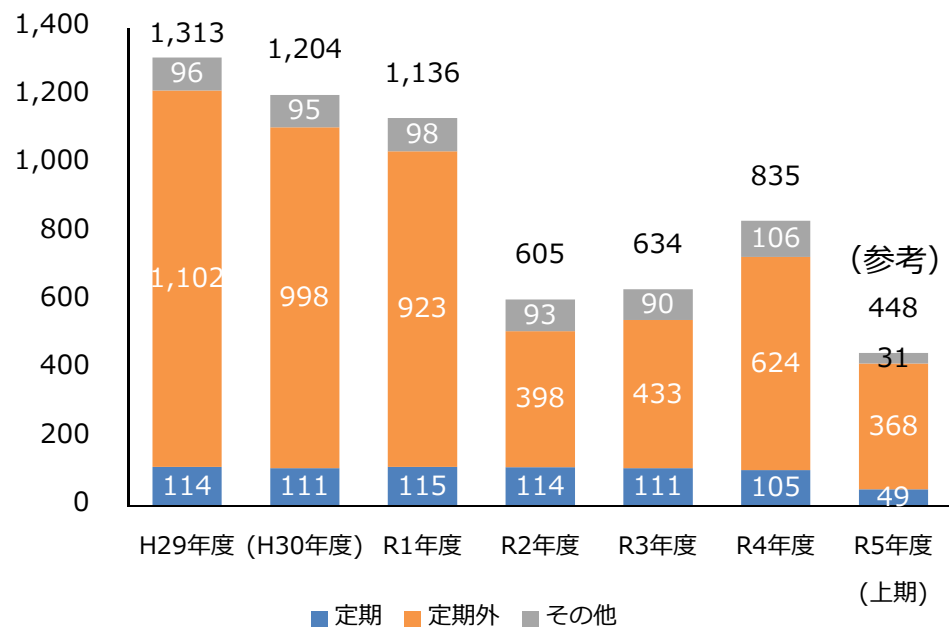


営業収益、輸送密度については令和元年度にかけて漸減傾向であったが、令和2年度に新型コロナウイルスの影響等により大きく減少し、現在は回復の途上にある。営業費用については車両の維持、修繕費等が減少した一方、動力費が増加した結果、平成29年度より増加している。

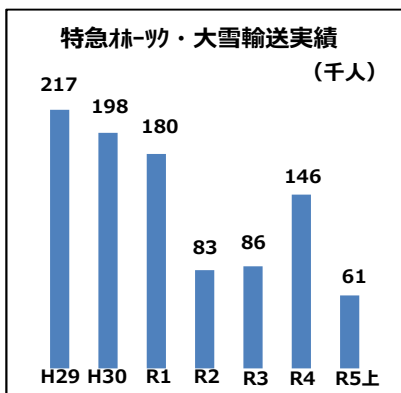
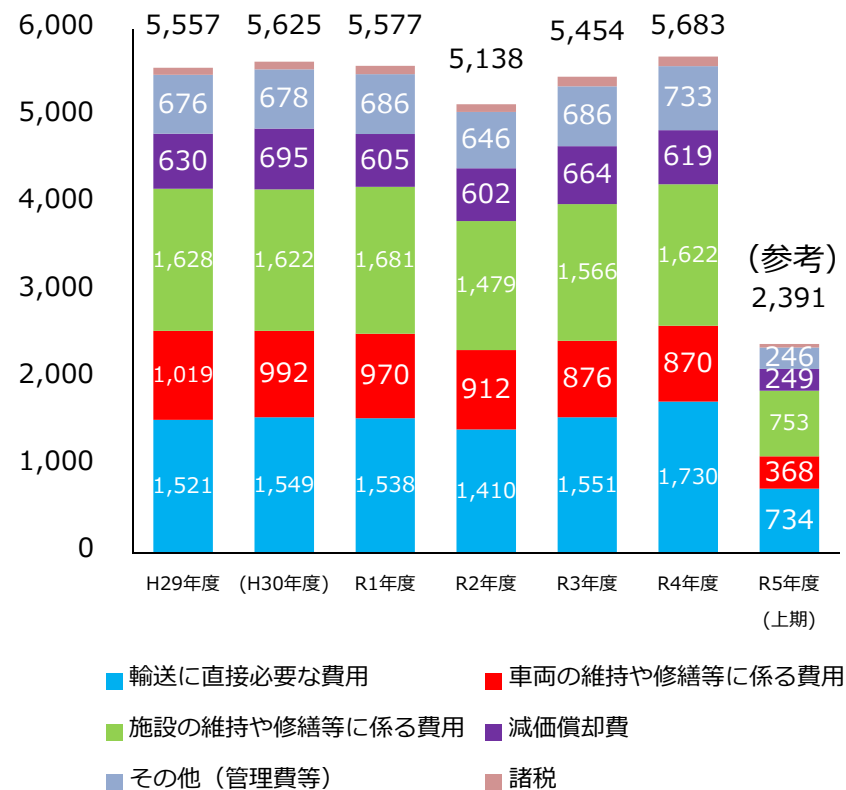
# 5 基本指標・関連指標の検証③

## (3) 営業収益・営業費用の内訳

① 営業収益 (単位：百万円)



② 営業費用 (単位：百万円)



新型コロナの影響による特急利用の減等により、令和2年度から定期外収入が減少し現在は回復途上にある。定期収入は通学生の減により減少傾向にある。

車両の維持や修繕等に係る費用が令和3年度からの特急大雪の季節化等により減少する一方、輸送に直接必要な費用が原油高により増加したことなどにより、令和4年度は平成29年度と比較し126百万円増加している。

## 6 5年間の総括的な検証①

- 石北線アクションプランは、利用者が少なく鉄道を持続的に維持する仕組みの構築が必要な線区において、J R北海道と地域の関係者が一体となって、利用促進やコスト削減など収支改善に資する具体的な取組を進め、取組を毎年度検証し、2次交通も含めたあるべき交通体系について、徹底的に検討を行うことを目的として、平成31年にスタートした。
  
- 第1期・第2期集中改革期間の5年間において、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、高校生や地域住民による駅舎周辺の環境整備や特急列車内での特産品販売など、計画した取組が十分に実施できなかった取組があったものの、
  - ・ 沿線自治体による通学定期、J R利用団体や特急利用等の運賃等に対する助成等の取組などにより鉄道利用促進の取組を実施したほか、
  - ・ 将軍山駅、北日ノ出駅、東雲駅及び生野駅の4駅を廃止
  - ・ 瀬戸瀬駅の維持費用負担と管理を遠軽町が行うこと等のコスト削減の取組も実施した。

これにより、J R北海道と地域の関係者が一体となって取り組む気運が着実に醸成され、当初計画になかった鉄道施設見学ツアー（石北本線バックヤードツアー）や鉄道の乗車につながる施策（クラフトビール列車の旅など）の実施、駅周辺の賑わいにつながる取組（遠軽町芸術文化交流プラザ建設など）等、石北線を活性化する追加の取組の創出や実施につながった。加えて、ご利用の少ない駅の見直しによる経費節減などの効果も見られた。

## 6 5年間の総括的な検証②

- ・一方で、鉄道施設を利用した地域住民対象のミステリートレインの実施など、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、中止または規模縮小もあり、計画した161件の取組のうち、27件（駅周辺環境整備、特急列車内での特産品販売など）については、期待された効果が発揮されず、その効果を十分に検証することができなかった。
  - ・なお、1件（リーフレットの作成）については、必要数を在庫や増刷にて対応したことにより2期目は作成を行わなかった。
- また、令和5年度においては、これまでのアクションプランの取組に加え、データとファクトに基づく議論を行い、これまで以上に踏み込んだ線区評価と実効性のある対策案の検討を進めるべく、国や北海道より新たに措置された補助制度を活用し、
- ・調査事業では、公共交通利用実態調査
  - ・実証事業では、
    - ①石北線を利用するオホーツク管内来訪者に対するバスフリーパスの割引
    - ②地域住民を対象に片道都市間バス、片道鉄道利用による都市間移動の利便性向上を実施した。
- これにより、
- ・学生を除くと日常的に石北線を利用する住民が極めて少ない一方で、今は利用していないものの今後は利用するとの回答が23%あること、また、高校生対象の調査では、通学時間が平均49分であり、自宅から駅までの移動手段は自転車・バイクが38%と最も多い実態を確認したこと

## 6 5年間の総括的な検証③

- ・ 鉄道利用後の目的地までの2次交通としてのバスの利用ニーズがあること
- ・ 都市間移動における鉄道と都市間バスの組み合わせにより選択肢が増えることが利用促進につながることを

が明確となった。

一方で割引施策を継続的に行う方策や、マイカーからの転換を一層促進するための方策について更なる検討が必要であることなど、石北線が抱える課題等を確認した。

- 上記のとおり、アクションプランに基づく取組等を進めてきたものの、約3年間にわたる新型コロナウイルス感染症拡大やそれに伴う行動制限・行動変容等により、生活面・観光面での利用はいずれも大幅に減少し、基本指標となる線区収支・輸送密度はいずれも目標未達が続いており、収支改善・利用拡大につながる事業の抜本的な改善方策の検討には至ることができなかった。
- 一方で、ポストコロナを迎え、令和5年度においては、生活交通の利用者数の回復、国内旅行の増加の動きもみられるところである。



## 6 5年間の総括的な検証④

- このような状況を踏まえ、今後、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により効果が発揮できなかった利用促進等の取組について、内容を見直し、実証事業として行うことも含めて検討・実施する。さらに、鉄道設備のスリム化等の徹底したコスト削減に取り組む。

また、令和5年度に実施した調査・実証事業の結果を基に、他の交通機関との連携等により都市間輸送等の増加を図るため、

  - ・ オホーツク管内来訪者の車移動からの転換を図るための2次交通との連携による利用者増加策
  - ・ 鉄道とバス等のさらなる相互連携による地域住民等の都市間移動の利便性向上策を検討・実施することで、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で実現できなかった収益の増加を目指し、地域交通の利便性と持続性の向上を追求する。
- 石北線を維持する仕組みの構築に向け、JR北海道と地域の関係者は、引き続き一体となって、これらの徹底した利用促進やコスト削減の取組を行うとともに、データとファクトに基づく議論を重ね、PDCAサイクルにより必要な見直しを行いながら、今後3年間を目途に、事業の抜本的な改善方策をとりまとめる。

## 石北線 具体的取組

I. 利用促進  
1. 共通

取組内容	事業主体	目標達成		スケジュール														
		(第1期)	(第2期)	H29		H30		第1期集中改革期間				第2期集中改革期間						
				上期	下期	上期	下期	R1		R2		R3		R4		R5		
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <span>上</span><span>下</span><span>上</span><span>下</span><span>上</span><span>下</span><span>上</span><span>下</span><span>上</span><span>下</span><span>上</span><span>下</span><span>上</span><span>下</span><span>上</span><span>下</span><span>上</span><span>下</span> </div>																		
(1) 利用実態調査	①統計値では掌握しがたいお客様の層等を掌握するための実態調査実施	JR北海道 自治体	◎	△														
(2) 輸送サービスの向上	①限りある車両でどのようなダイヤがよいか等、地域の皆様と意見交換の実施	自治体 JR北海道	◎	◎														
(3) マイレール意識醸成	①公共交通マップの作成																	
	ア. 町公共交通マップ	自治体	◎	○														
	イ. 公共交通の利用促進・普及啓発事業	自治体		◎														
	②地域住民向け特典付き沿線マップの作成・配布	自治体 JR北海道	◎	◎														
	③通勤の際の鉄道を含めた公共交通利用促進																	
	ア. 市職員及び市内事業者のエコ通勤への取り組み	自治体 その他	◎	◎														
	イ. ノーマイカーデー等と連携	自治体		◎														
	④地元住民との懇談会・シンポジウム・意見交換会等の実施																	
	ア. シンポジウム、セミナー、オホーツク圏PR事業等(公共交通の利用促進・普及啓発事業)※	自治体	◎	◎														
	イ. 鉄道の維持存続に向けた取り組みの周知・意見交換	自治体		△														
エ. 石北線を知ってもらう利用促進動画の配信	自治体		◎															
⑤公共交通機関利用の呼びかけ																		
ア. 広報誌等による鉄道利用の呼びかけ	全自治体	◎	◎															
イ. ホームページによる情報発信	全自治体		◎															
ウ. イベント実施時のJR利用促進PR会場でのチラシ配布	自治体	△	△															

1. 共通

取組内容	事業主体	目標達成		スケジュール														
		(第1期)	(第2期)	H29		H30		第1期集中改革期間				第2期集中改革期間						
				上期	下期	上期	下期	R1		R2		R3		R4		R5		
								上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期	
エ. 公共交通ご当地キャラクターイベントパンフレット等への掲載、グッズの作成・配布	自治体	△	△															
オ. 利用促進パネル展の実施	自治体	◎	○															
カ. 鉄道施設見学ツアーの実施	自治体	△	△															
キ. H100形ラッピング車両一般公開の実施	自治体 北海道 JR北海道		◎															
⑥リーフレットの作成 線区の状況、利用のお願い、集中改革期間の内容等について利用者にご理解いただく資料の作成	JR北海道	○	×															
⑦鉄道施設見学会などの際にJR社員から線区に関する説明の実施	JR北海道	◎	◎															
⑧マイレール運動の提唱	自治体	◎	◎															

1. 共通

取組内容	事業主体	目標達成		スケジュール													
		(第1期)	(第2期)	H29		H30		第1期集中改革期間				第2期集中改革期間					
				上期	下期	上期	下期	R1		R2		R3		R4		R5	
						上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期
(4) 他の交通機関等との連携	①バス等との相互連携の推進	自治体 JR北海道	◎	◎													
	②イベント時の駅からの無料シャトルバスの運行	自治体	△	△													
	③石北線沿線(旭川市～上川町間)を運行する バス路線利用者に対するアンケートの実施	自治体		○													
(5) 拠点としての駅の活用	①駅前の整備																
	ア. 駅前広場での乗り継ぎ環境 向上、案内強化の継続	自治体 JR北海道	◎	◎													
	②駅の活用																
	ア. 駅舎の待合環境の向上	自治体 JR北海道 その他	◎	◎													
	イ. 駅の空きスペースの利活用	自治体	◎	◎													
	ウ. 駅クリスマスツリー飾り付け	自治体		◎													
	エ. 鉄道写真パネル展	自治体		◎													
	③駅を中心とした街にぎわい創出の検討																
	ア. 駅周辺のスペースを活用した誘客事業	自治体	○	○													
	イ. 駅周辺整備によるにぎわい と明るさあふれるまちづくりの創出	自治体		◎													
	④駅舎周辺の環境整備 公区及び高校生、町による環境整備 の実施	自治体 その他	△	△													
⑤駅前広場駐車場との連携による利用 環境向上 ・駅前広場駐車場の割引実施	自治体 JR北海道	◎	◎														
(6) 当社の行き届かない 取組に対するご協力	①駅での観光案内、外国人通訳の確保 等																
	ア. 駅での観光案内の取り組み	自治体 JR北海道 その他	◎	◎													

1. 共通

取組内容	事業主体	目標達成		スケジュール														
		(第1期)	(第2期)	H29		H30		第1期集中改革期間				第2期集中改革期間						
				上期	下期	上期	下期	R1		R2		R3		R4		R5		
						上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期	
(7) 全道利用促進取組との連携	①北海道鉄道活性化協議会との連携	ア. 公共交通の利用促進に向けた道民運動の展開	◎	◎														
		イ. 鉄道をはじめとする公共交通利用者の拡大 (乗車に繋がる施策の展開) ・道民の利用拡大 ・観光客の利用拡大 ・利用促進に向けた地域の取組との連携	◎	◎														
		ウ. 道外、海外観光客の利用拡大	◎															
		エ. 本道における鉄道網の重要性や地域の取組等の全国への発信	◎	◎														
		オ. 感染症により失われた公共交通需要の回復		○														

2. 生活利用

取組内容	事業主体	目標達成		スケジュール														
		(第1期)	(第2期)	H29		H30		第1期集中改革期間				第2期集中改革期間						
				上期	下期	上期	下期	R1		R2		R3		R4		R5		
								上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期	
(1) お客様サービスの向上	①「スマホ定期券」の活用																	
	ア. 利用実態の把握	JR北海道	◎	◎														
	イ. 「スマホ定期券」の利用者増加に向けた取り組み	JR北海道		◎														
	②大規模輸送障害発生時の運行情報等の内容充実	JR北海道	◎	◎														
(2) 公共交通の利用促進	①行事等での鉄道利用の促進																	
	ア. 行事等で鉄道を利用した際のJR乗車運賃等への助成																	
	①通学定期の助成	自治体		◎														
	②団体利用の助成	自治体		◎														
	③JR乗車運賃等への助成	自治体	◎	◎														
	イ. 行事等での鉄道利用の呼びかけ	自治体	◎	◎														

3. 観光利用

取組内容	事業主体	目標達成		スケジュール														
		(第1期)	(第2期)	H29		H30		第1期集中改革期間				第2期集中改革期間						
				上期	下期	上期	下期	R1		R2		R3		R4		R5		
(1) 道内外から石北線にお越しいただくための取組	①商品造成やキャンペーンの実施航空会社と連携した利用促進																	
	ア. JAL/JR北海道 ひがし&きた北海道キャンペーンの実施	IR北海道	◎	◎														
	イ. LCCとタイアップしたフリーバスの設定	IR北海道		◎														
	②お客様のご利用の少ない閑散期の需要創出 ・フリーバスを活用した石北線利用促進の取組	IR北海道 その他	◎	△														
	③宣伝協力 ・駅等での宣伝協力	自治体 JR北海道 その他	◎	◎														
	④鉄道利用旅行者への助成制度の導入※	自治体	◎	◎														
	⑤民間団体等による利用促進活動に対する支援	自治体	◎	◎														
	⑥観光列車「流氷物語号」の運転 ・流氷物語号の魅力向上に向けた取組	自治体 JR北海道 その他	◎	◎														
	⑦施設巡りバスによる着地型観光交通の取り組み	自治体 その他	◎	◎														
⑧オンデマンドバスの観光利用とシームレス交通の検討 (駅、バスターミナル、観光地・施設等の連携)	自治体		◎															
(2) 地域の皆様と連携した取組の推進	①沿線や周辺地域にお住まいの皆様にお出かけを呼びかけ																	
	ア. ヘルシーウォーキングの実施	自治体 JR北海道 その他	◎	◎														
	イ. ご当地キャラクターによる乗車イベントの実施	自治体 JR北海道	○	○														
	ウ. 鉄道施設を利用した乗車イベントの実施	自治体 JR北海道	△	△														





3. 観光利用

取組内容	事業主体	目標達成		スケジュール															
		(第1期)	(第2期)	H29		H30		第1期集中改革期間				第2期集中改革期間							
				上期	下期	上期	下期	R1		R2		R3		R4		R5			
⑤特急列車内の特産品販売 ・石北線における実施	全自治体 JR北海道 その他	△	△																
⑥スタンプラリー等による利用促進策の実施	全自治体 JR北海道 その他	△																	
⑦サイクリング観光客への鉄道利用PR	自治体 その他	◎	◎																
⑧市民団体等による賑わいの創出に対する助成	自治体 その他	◎	◎																
⑨駅舎周年記念企画	自治体 JR北海道	◎	◎																
⑩「THE ROYAL EXPRESS」運行に伴う賑やかしの実施。	自治体 JR北海道	◎	◎																
⑪261系5000代ラベンダー編成「HOKKAIDO LOVE!」 お披露目運転と賑やかしの実施。	全自治体 JR北海道	◎	◎																
⑫「HOKKAIDO LOVE! ひとめぐり号」運行に伴う 賑やかしの実施。	自治体 JR北海道		◎																
⑬「いまこそ輝け! 北のキハ183系」キャンペーン企画	自治体 JR北海道		◎																
⑭「石北本線全線開通90周年記念企画」 お披露目運転と賑やかしの実施。	自治体 北海道 JR北海道		◎																
⑮261系5000代ラベンダー編成運行に伴う キャンペーン企画	北海道		○																
⑯市民団体、バス会社と連携した時刻表作成	自治体		○																
⑰鉄道愛好家団体が路線PR	全自治体		○																

4. 広域交通

取組内容	事業主体	目標達成		スケジュール															
		(第1期)	(第2期)	H29		H30		第1期集中改革期間				第2期集中改革期間							
				上期	下期	上期	下期	R1		R2		R3		R4		R5			
(1) 出張や学校行事、都市間 移動等での鉄道利用	①官公庁、域内事業所等による出張等での 鉄道利用の促進	全自治体 その他	◎	◎															
	②学校行事等での鉄道利用促進																		
	ア. 修学旅行、合宿等におけるJR 利用の呼びかけ	自治体	◎	◎															
	イ. 課外活動等におけるJR利用の 呼びかけ	自治体		◎															
	③えきねっとトクダ値による需要や動向を 踏まえた割引の設定	JR北海道	◎	◎															

II. 経費節減

取組内容	事業主体	目標達成		スケジュール															
		(第1期)	(第2期)	H29		H30		第1期集中改革期間				第2期集中改革期間							
				上期	下期	上期	下期	R1		R2		R3		R4		R5			
(1) 業務の一部をお願いすることによる経費圧縮	①業務委託の実施の検討	◎	◎																
	②当社の行き届かない取組について自治体側での実施の検討	◎	◎																
	③無人駅管理 地域自治会等が管理している駅待合の管理の継続	◎	◎																
(2) コストダウンの取組に対するご理解	①ご利用の少ない駅の見直し ※令和3年度より自治体による維持管理する駅	◎	◎																
	②ご利用の少ない踏切の見直し	◎	◎																
	③中長期的な視点に立った設備スリム化の可能性について検討	◎	◎																

III. その他

取組内容	事業主体	目標達成		スケジュール															
		(第1期)	(第2期)	H29		H30		第1期集中改革期間				第2期集中改革期間							
				上期	下期	上期	下期	R1		R2		R3		R4		R5			
(1) あるべき交通体系について徹底的な検討	①あるべき交通体系について地域の皆様と検討	◎	◎																
	②2次交通との連携に向けた検討 ア.鉄道とバスの連携による相互に成り立つ仕組み作りに向けた検討	◎	◎																
	イ.地域公共交通計画の策定		◎																
	ウ.地域公共交通会議等の活用及び推進		◎																
(2) 鉄道施設を維持するための取組の検討	①中長期的に鉄道施設を維持するため、集中工事等を実施する仕組み作りを関係自治体と協議し行う。		◎																